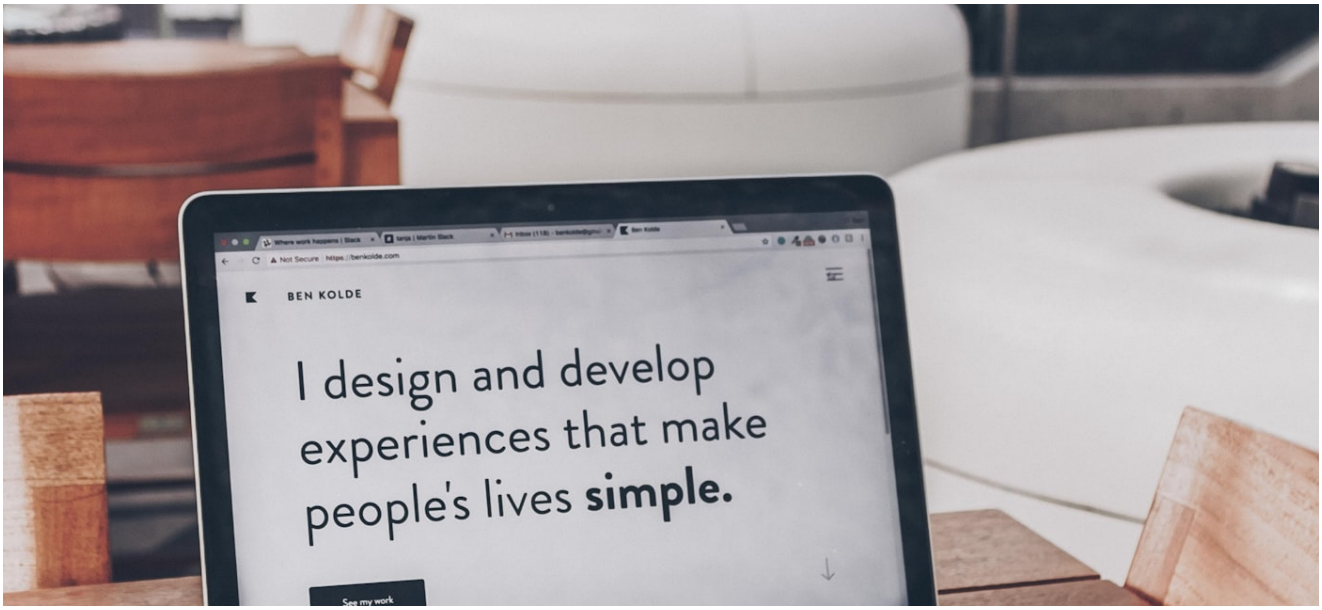
ホールドモードと許容誤差設定で角度測定を繰り返し正確に行う方法

スマートフォンの水準器で1回だけ測っても十分ではないことがあります。Bubble Level & Angle Gaugeのホールドモードと許容誤差バンドを使って、安定した繰り返し測定を実現する方法を解説します。

著者: Lubor Šimůnek • 公開日: September 5, 2026 • 生産性

オンライン版: https://appstoryo.com/ja/blog/hold-mode-tolerance-settings-angle-measurements



1回の測定では不十分な理由

スマートフォンの加速度センサーには固有のノイズがあります。完全に平らな面に置いていても、表示値は±0.3°～1°程度変動します。柔らかい面に置いたり、周囲の振動がある場合はさらに大きくばらつきます。タイル施工、キッチン家具の設置、屋根勾配の複数点確認など、精度が求められる作業では、この不安定さが仕上がりの品質を左右します。

ホールドモード：測定値を固定して離れる

ホールドモードはボタンをタップした瞬間に表示値をロックします。スマートフォンを置き、信頼度バーが安定するのを待ち、ホールドをタップ。その後はゆっくり値を読み取り、メモしたり仕様書と比較したりできます。デバイスが置いてある状態で無理な体勢で読み取る必要はありません。

実例として、床タイル10枚の平滑度を確認する場合、ホールドモードがあれば置く・固定・記録・移動というサイクルを数分で完了できます。

許容誤差バンド：OK・近接・範囲外

職種によって「十分に水平」の基準は異なります。タイル職人はANSI基準でおよそ±2mm/m、家具職人は±1°、屋根職人は±5°を許容することがあります。Bubble Level & Angle Gaugeでは独自の許容範

囲を設定でき、結果をカラーコード（緑＝OK、黄＝近接、赤＝範囲外）で表示します。数値の細かい差に悩まず、素早くGO/NOGOを判断できます。

キャリブレーションプロファイルと信頼度バー

アプリでは異なる面向けのキャリブレーションプロファイルを名前付きで保存できます。ガラス、粗削り木材、塗装鋼材ではそれぞれ挙動が異なるため、面ごとにキャリブレーションすることで系統誤差を排除できます。やり直し機能とセルフチェックにより、キャリブレーションのミスを早期に修正できます。

信頼度バーはセンサーの安定性をリアルタイムで示します。最大になるまで待ってからホールドを押す習慣をつけるだけで、測定誤差を大幅に減らせます。

推奨ワークフロー

適切なキャリブレーションプロファイルを開き、目標角度と許容誤差を設定し、スマートフォンを置き、信頼度バーが最大になるのを待ち、ホールドをタップ、値を記録して次の点へ。**Bubble Level & Angle Gauge**は無料・広告なし。iOSとAndroidでダウンロードできます。

引用形式: Lubor Šimůnek (2026). ホールドモードと許容誤差設定で角度測定を繰り返し正確に行う方法. AppStoryo, lapnito.cz s.r.o.. https://appstoryo.com/ja/blog/hold-mode-tolerance-settings-angle-measurements
© 2026 lapnito.cz s.r.o.